

プログラム第1部

あさとや

1. 安里屋ゆんたメドレー（新から旧へ）

沖縄県八重山諸島の竹富島に伝わる古謡です。
1934年に星克作詞、宮良長包作曲により標準語でレコード化された「安里屋ゆんた」があり、古謡と区別して「新安里屋ゆんた」と呼んでいます。

2. 黄金の花

作詞 岡本おさみ、作曲 知名定男。
遠い故郷から日本へ出稼ぎに出た家族や同朋を思いながら唄う曲です。

3. 三線の花

作詞作曲 BEGIN。
沖縄県石垣島出身の3人組によって結成されたアコースティックバンド、BEGINの名曲です。オジーの亡き後、部屋に放って置かれていた三線を弾くと、オジーとの思い出が鮮やかに蘇ります。

4. 島めぐり

作詞作曲 知名定繁。
沖縄本島各地の名所を巡りながら、その名物や歴史を歌います。
今回巡る地名は「糸満」「与那原(よなばる)」「中城(なかぐすく)」です。

5. オジー自慢のオリオンビール

作詞作曲 BEGIN。
沖縄を代表するビール、オリオンビールのCMソング。
ビールに託すウチナーンチュの誇りと、オジーの思いを歌い上げます。

わりひがみ

6. 童神（ウチナーグチ）

作詞 古謝美佐子、作曲 佐原一哉。
NHKの連続テレビ小説「ちゅらさん」で挿入歌として使用され、広く知られるようになりました。我が子への愛を、太陽や月、大自然の神々に祈りながら歌います。

プログラム第2部

1. 四つ竹

「打ち鳴らし、鳴らし四つ竹を鳴らして、今日は晴れの舞台に出て踊ることなんと嬉しいことよ」
四つ竹の清らかに澄んだ響きにあわせ、華やかな衣装と大輪の花笠をかぶって演じられる祝儀舞踊です。

2. 豆が花

まみ ばな
沖縄県宮古島の民謡。
島一面の豆の花が朝露を受けて咲き誇る姿をみて豊年を予感し、平和な世を請い願う曲です。

3. ていんさぐぬ花

沖縄本島に広く伝わる民謡。
「ていんさぐ」はホウセンカのこと、沖縄では古くからホウセンカの汁を爪に塗って染めるとマジムン（悪霊）除けの効果があると信じられていました。親や年長者の教えに従うことの重要性を説く教訓歌となっています。

4. 花～すべての人の心に花を～

作詞作曲 喜納昌吉。
1964年東京五輪実況のアナウンサーの、「泣いています……笑っています」という言葉と、この日の感銘から喜納昌吉のなかで生まれた曲。世界中で大ヒットしました。

5. ハイサイおじさん

作詞作曲 喜納昌吉。
喜納昌吉のデビュー曲。13歳の頃に作詞作曲したそうです。
歌詞は近所の「変なおじさん」との会話を元にしています。
「ハイサイ」とは沖縄の言葉で「こんにちは」の意味で、女性は「ハイタイ」と言います。

花くすべての人の心に花をく

川は流れて どこどこ行くの
人も流れて どこどこ行くの
そんな流れが付く頃には
花として花として
咲かせてあげたい
泣きなさい笑いなさい
いつの日か いつの日か
花を咲かそうよ

涙流れて どこどこ行くの
愛も流れて どこどこ行くの
そんな流れを このうちに
花として花として
迎えてあげたい
泣きなさい笑いなさい
いつの日か いつの日か
花を咲かそうよ

花は花として 笑いもできる
人は人として 涙も流す
それが自然の 唄なのさ
心の中に 心の中に
花を咲かそうよ
泣きなさい笑いなさい
いついつまでも いついつまでも
花をつかもうよ

泣きなさい笑いなさい
いついつまでも いついつまでも
花をつかもうよ